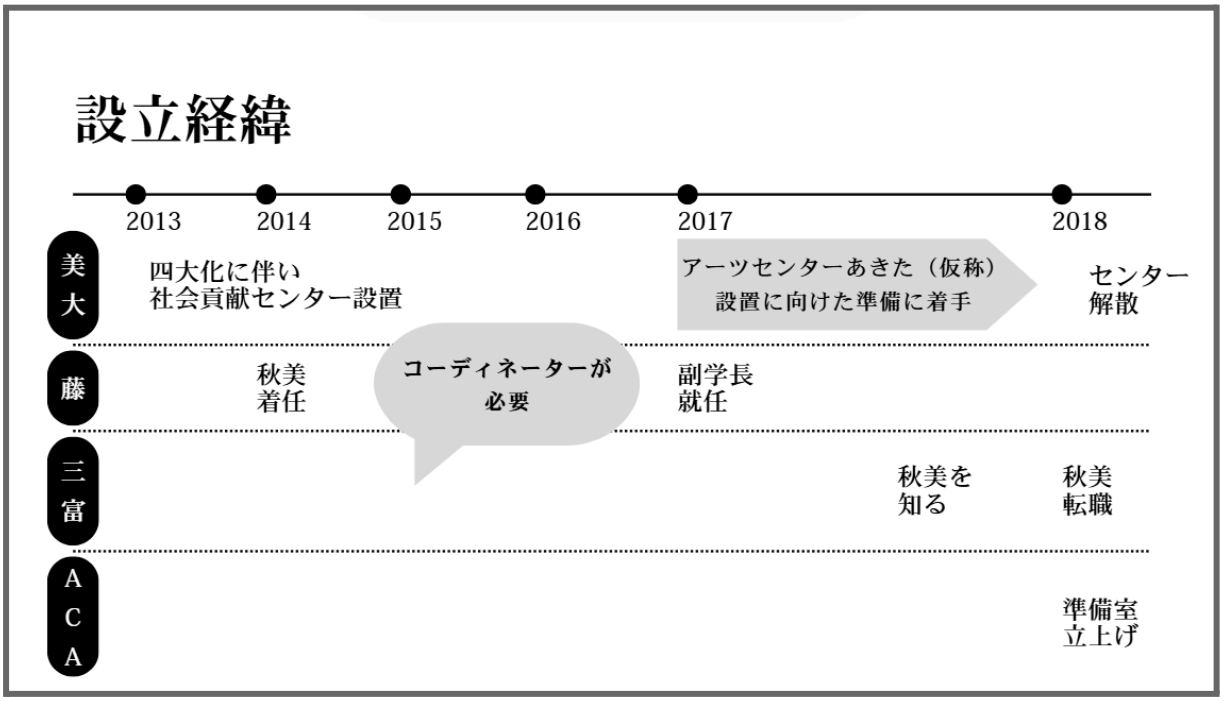
2025年2月25日 | 藤さんトーク収録

参加者: Hiroshi Fuji Yukie Mitomi

トークの流れ
- アーツセンターあきたの現状
- アーツセンターあきたの設立経緯（藤さん副学長就任まで）
- 質問1「Youは、なぜ秋田に？」
- 質問2「なぜ”コーディネーター”が必要だった？」
- アーツセンターあきたができてから
- 質問3「ここまでのアーツセンターあきた 正直、何点？」
- 質問4「これからアーツセンターあきたで（と）やってみたいこと」

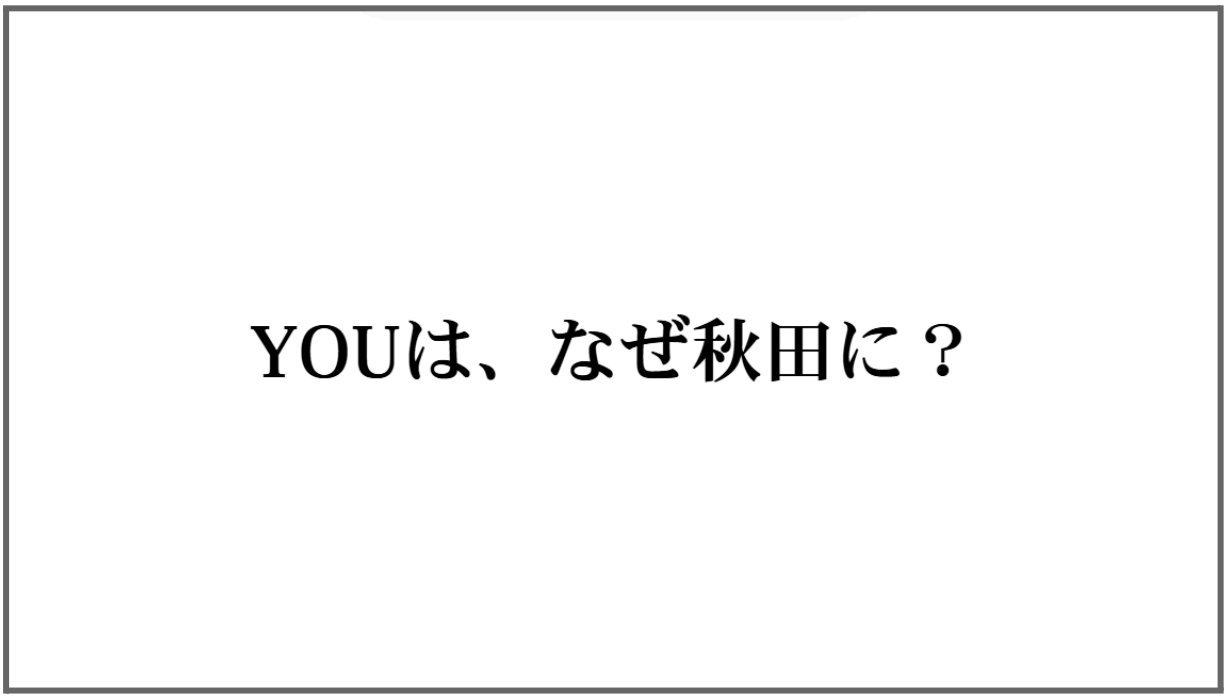
アーツセンターあきたの現状

アーツセンターあきたの設立経緯



※藤さんの秋美着任は2014年10月。

質問1



▸三富は、なぜ？

・国際交流基金を退職し、教育系の財団に移った後、アートに関わることに興味がわき、アーツカウンシル東京の講座TARL（Tokyo Art Research Lab）を受講。

・そこで岩井先生が関わる「辺境芸術最前線」という本に出会い、秋美を知り、興味をもつようになる。
・求人情報を見つけて、応募した。

▸藤は、なぜ？

- プロジェクトを実現したい欲：
  ・どこでも面白そうなところ、自分の活動が実現できそうなところに行く
  ・地域の中で新しい活動（プロジェクト）を実践する場所をみつけて、実現することに興味。学生時代から。

- 事務局・マネジメント人材が大切だという気づき：
  ・各地でプロジェクトをやっていくうちに、「事務局」、「マネジメント人材」が必要＆大切だと気づく。事務局は大変（経験のない新しいことをやる、街の中で交渉して実現する）。プロジェクトが上手くいくかどうかは事務局にかかっている

- イベントよりも拠点が必要だという気づき：
  ・アートプロジェクトの仕組みをつくるが、イベント的に終わる→拠点が必要だという気づき
  ・拠点をつくるとその難しさ（いろんなお金がかかる）に気づく、場を運営するためだけに労働することの違和感

- 公立文化施設が拠点になる：
  ・街がもっている文化施設が、拠点になりえるのではないか→十和田市現代美術館の運営管理に関わるように
  ・十和田現代美術館を、地域でプロジェクトを振興するための拠点として捉える

- プロジェクトの「受け手」「つくり手」が必要：
  ・誰を「受け手」にするのかという問い
  ・「誰と」つくるか→一緒につくる人がいる→スクール事業スタート
  ・美術館の商品は作品、作家。いい作家を育てることが必要だが、そのためにはいいマネジメント人材が必要→アーツキャンプを実施

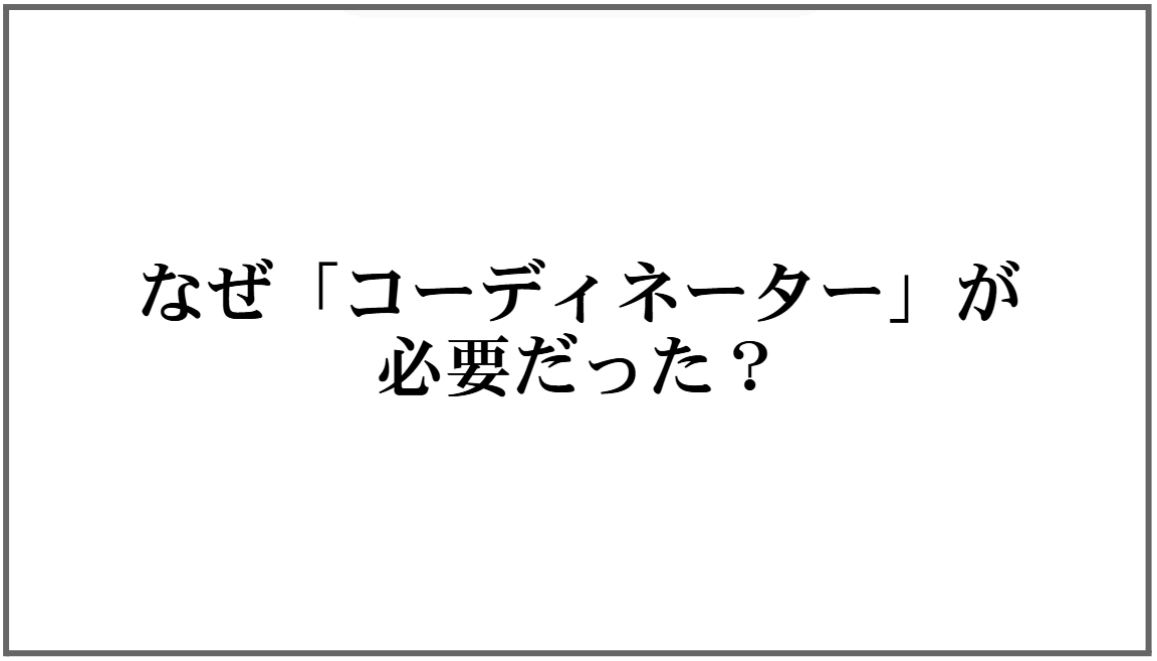
- 秋田に美術大学（＝人材育成）ができた！→大学が拠点になる
  ・大学の運営は事務局（市役所からの派遣もあって優秀！）、教員がいる
  ・でも、コーディネーター／マネジメント人材がいない

▸**OS**をつくること＝藤浩志の作品、ではない？

- 拠点をつくると、自分がプレイヤーになれないもどかしさ
  ・仕組みをインストールすることで、空間ができるという表現に取組んでいた。
  ・金沢21美の開館記念展（2004年）で、「かえっこ」のプログラムを実施。自分は、出展作家としてクレジットされたが、かえっこの担い手は地元市民。他の作家の作品を観て、「自分も空間をつくりたい」という欲がわいてきた。
  ・奥入瀬・十和田芸術祭（2013年）、自分はディレクターとして関わり、キュレー　ターは服部さん、小澤さん。アーティスト達が楽しそうで、うらやましかった。

・2013年は、作家・藤浩志として唯一展覧会を一度もやっていない年。作家を辞めたらしいという噂もたった。

質問2



▸（大学の場合）事務局の職員とコーディネーター、何が違う？

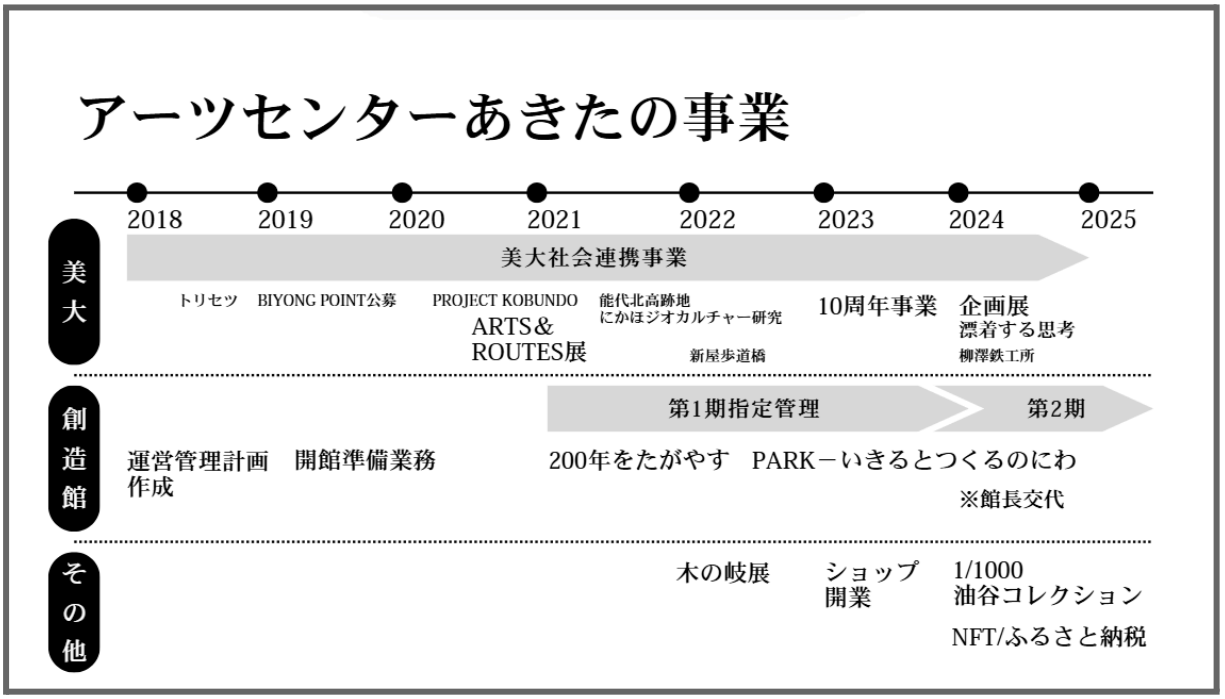
- 目的が違う
  ・事務局職員：
  -大学を運営していく、市役所を運営していく
  -常識的に運営していく
  ・コーディネーター：
  -今までない新しい事業を立ち上げることに熱量をもてるか
  -超常識に対峙する
  -アーティスト（アーティストを取り巻く状況・物事）を知っている、興味をもつ
  -街を知っている、興味をもつ

- アート（系）＝常識を超えている（≠非常識）
  ・もっと面白くなるのに・・・という思い
  ・違和感をもつ
  ・新しい在り方を探している

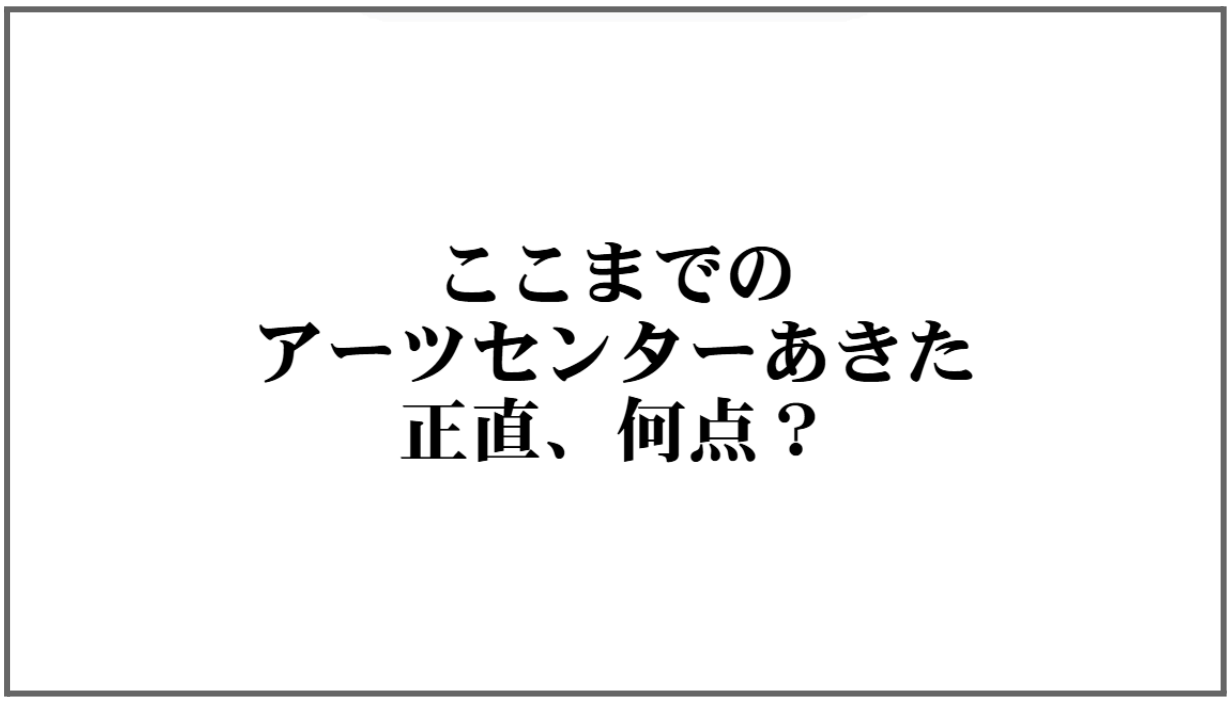
- アスリートとアーティストは似ている
  ・アスリートは「記録＊」を超えていく
  ・アーティストは「常識＊」を超えていく（態度をもつ）
  ＊「過去に認められた価値（観）」

- まだ何者でもない人、何かをつくり出そうとしている人に出会いたい
  ・面白い人たちを応援して、面白くなりたいと思っている人

アーツセンターあきたができてから



質問3



- ビジョンをもたない質
  ・どこまでできるかわらかないから、その意味では150点、250点

- 一方で、まだ動いてないともいえる

・準備段階で、点数はつけられない
・それぞれのプロジェクトは動いているけれど、要望を受けてやっている
・頼まれていないことをいかにやるか。それができると”はじまる”。

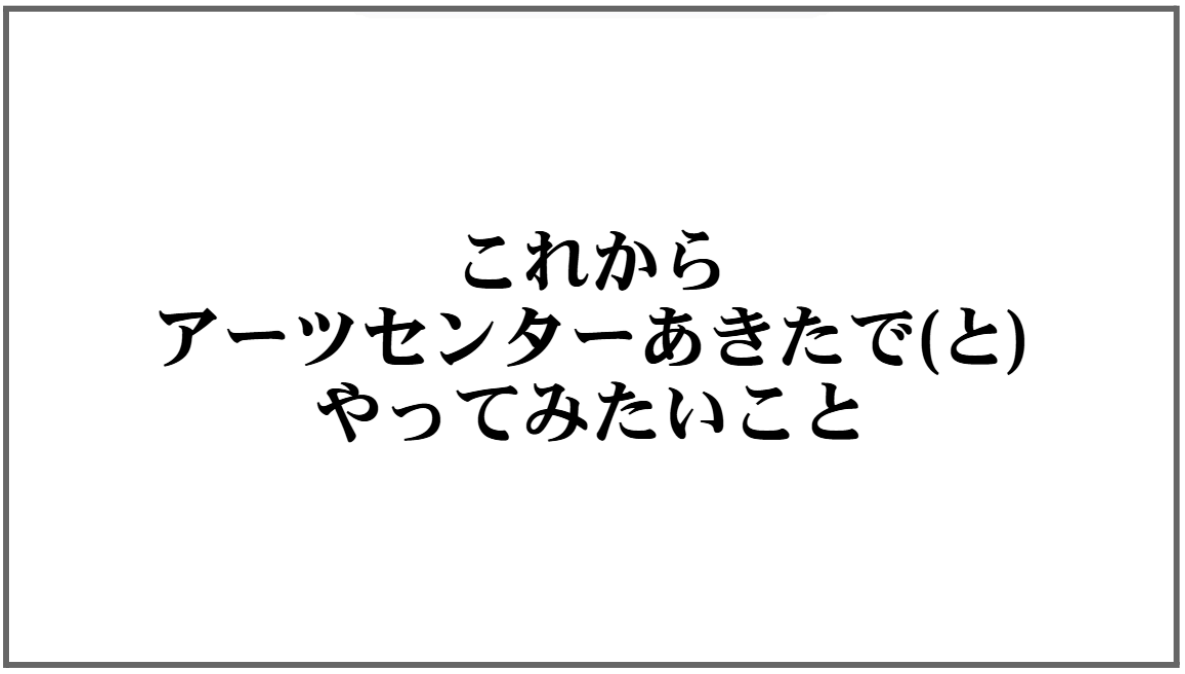
- 創造館ができた

・地域のプロジェクトのベースとしての大学が、アーツセンターができて動く期待があったが、難しい局面も
・創造館ができあがった
・秋田市が芸術祭をやりたいという話＜また今度話したい＞
→たがやして土壌をつくっていっている

- 藤）印象に残っている事業：高校生Creative Camp

・「公募展」をやろうという、社会貢献センターのお題。
・高校生が秋田で面白いキャンプをつくる。秋田に来てもらう。良かった。

質問4



▸やりたいこと

- つくる場所をつくりたい
- 大学のシステムのアップデートができると良い
- プロジェクトの現場をつくっていく
- 新屋で空間をつくっていきたい
- 「Project Goodbye」を立ち上げる

・廃棄物をどういかし、どう別れていくのか
・何が引き継がれるのか、更新・変容する
・山、海を墓標にしたい
・ものとの付き合い方、別れ方、アーカイブの方法、デジタル情報の収集・収蔵
・活動がどう記述され、記録され、次の世代につなぎ、循環するのか

・重要なこと＝活動をつくることは邪魔してはいけない

- 美術大学が秋田に対して何ができるかを拡張する

・秋田美大→芸大になると良い
・次の担い手・人材をつくっていけるようになるとよい
・学生がいる限り面白い人はでてくる
・教員・職員は変わっていく

- つくり手が、誰とつくっていきたいのか発言できるようになると良い

▸世の中で「超常識」なことへの共感を得られない

- 圧倒的な力を見せる、超えた結果を見せる、ぎゃふんと言わせる
- 地道につくるしかない
- 予算なのか、時間なのか→予算がないと工夫ができる